

説教題：「**霊的生活**」

鍵となる聖句：ヨハネによる福音書 14:16-17 – わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。<sup>17</sup> その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。

皆さん、おはようございます。皆さんと再びお会いできることをうれしく思います。私は、教会の信仰声明にあるキリスト教の教義について説教シリーズを行っており、先月はここで聖霊の教義について説教をしました。その後、この聖霊と私たちの生活における聖霊の働きという重要なテーマについて、もっと話すべきことがあるのではないかと感じました。3週間前の私のメッセージでは、教理的な問題を強調しましたが、私たちが日常生活の中で聖霊の存在を意識してクリスチャン生活を送るにはどうしたらよいかという点については、お話しする時間がありませんでした。そこで、今日はこのようなこととお話ししたいと思います。今日のメッセージのタイトルは、「**霊的生活**」です。

前置きが長くなりましたが、先月の話を少し復習しておきます。聖霊は、三位一体の第三の位格です。父、子、そして聖霊です。この3つのメンバーは、同じ本質と同じ永遠の存在を持つ別個の人です。私たちは神について考えるとき、この世界を創造し、人間の歴史の中で行動される父なる神について、ある種のイメージを抱いています。そして、人となり、私たち人間の中で生きてくださった神の御子、主イエス・キリストについても、ある種のイメージを抱いています。しかし、私たちの多くは、三位一体の第三の位格について、どちらかという曖昧なイメージを持っています。聖霊をどのようにイメージしたらよいか、よく分からないのです。

それはなぜでしょうか。一つは、父なる神の言葉と行動は聖書の中に記されています。そして、御子、つまり、私たちの間で実際にこの地上に歩まれた主イエス・キリストについても、そうなのです。しかし、聖霊となると.....霊的な存在として私たちと共におられます

が、通常は目の前に物理的な形で現れるわけではないからです。例えば、イエスのバプテスマでは鳩の形で、ペンテコステでは吹き荒れる風と火の舌で、聖霊が現われることがあります。しかし、通常、主は視覚的な形で私たちに御自身を現されることはありません。しかし、普段は、目に見える形では現れず、背後で働かれる。ある意味、それが本来の聖霊の姿なのです。

先月の説教でお話しした、私たちの教会の「信仰声明」の第4項を読みましょう。

**聖霊の働きは、主イエス・キリストに栄光を帰すためのものであると信じる。この時代にあって、聖霊は、人に罪を認めさせ、罪ある者を新生させ、神を信じる者がその信仰にふさわしく生き、働きをなすことができるように、その内に宿り、導き、教え、力を与える方である、と信じる。ヨハネによる福音書 16:7-14。**

聖霊の働きは、何よりもまず、主イエス・キリストに栄光を帰することです。イエス・キリストを高めることです。聖霊はご自分に注目されるのではなく、私たちの目をイエスに向けさせたいと願っておられるのです。ですから、先ほど、私たちが聖霊について明確な視覚的イメージを持っていない理由の一つは、聖霊の働きが人間の注意を主イエス・キリストに引きつけることであるからかもしれないと言いました。

私たちの信仰声明を引用する聖書箇所：ヨハネによる福音書 16:7-14. **その 13-14 節を読みましょう。** – しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。<sup>14</sup>御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。

聖霊は自分の意思で語るのではなく、父なる神と子なる神から聞いたことを語るのです。そして、14節を見てください。聖霊は、主イエスの栄光を現わします。

使徒の働きの最初の章に、イエスが天に上げられる前に、弟子たちに、このことを言われました。使徒の働き 1:8 – 「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

私たちに力を与えてくださるのは、聖霊です。この力を与えてくださる目的は、イエス・キリストの証人となることです。

神の御子が受肉と呼ばれる方法で人間の形を取られたとき、神は多くの良いわざをされましたが、一度に一ヶ所にしかおられなかったのです。しかし、聖霊が天から地上に遣わされてすべての信者に宿った今、キリスト教の働きは世界中で毎日何千（何百万）人もの私たちによって行うことができるのです。この考え方は、イエスがヨハネによる福音書 14:12 で述べたことの背後にあります- まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。わたしが父のもとに行くからです。

先ほど引用したイエスの言葉は、最後の晩餐の後、十字架につけられる前夜に弟子たちに語られた長い講話からきています。その長い講話の中から、ヨハネによる福音書 14 章 16 節から 17 節までの言葉を紹介します。-<sup>17</sup>その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。

イエスはこの地上から旅立たれるので、ご自分の代わりに聖霊を遣わすと約束されています。そして、その聖霊は、イエスに従う一人一人の人生を通して共にいてくださるのです。17 節には、「御霊は私たちとともにおられ、私たちのうちにおられる」とあります。

今日のメッセージを進める前に、これまでお話しした聖霊との生活についての要点をおさらいしておきたいと思います。

第一に、イエスがお帰りになるので、イエスの代わりに「もう一人の助け主」（もう一人の慰め主／弁護者）、つまり聖霊を遣わされます。

第二に、聖霊の主な働きは、クリスチャンを聖い生き方とクリスチャンとしての奉仕のために力づけることによって、キリストの栄光を讃えることです。

第三に、聖霊は私たちクリスチャンに宿っています。この聖霊は、新生した私たち一人一人の内側に宿っておられます。

次に、本日のメッセージの後半でより詳しくご説明しますが、いくつかの追加ポイントの概要をご説明します。

第四に、聖霊は「しるし」として私たちに与えられており、私たちが天で相続権を受け取るまで私たちを守り抜くという誓約をされています。

第五に、聖霊は私たちに聖く生きるための力を与えてくれます。もしあなたが御霊に従って生きるのではなく、自己のために生き、罪を犯すなら、それは非常に深刻な問題です。

第六に、教会の各メンバーには、教会を建て上げるために用いる霊的な賜物が与えられています。

第七に、私たちの人生は、聖霊の実によって特徴づけられることです。

では、先ほどの4つ目のポイントについて、もう少し詳しく説明しましょう。エペソ人への手紙 1:13-14 を見てみましょう。—またあなたがたも、キリストにあって、真理のことば、すなわちあなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことによって、約束の聖霊をもって証印を押されました。<sup>14</sup> 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証であります。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。

聖霊は、私たちが神の子であることを示す印として、私たちに与えられています。聖霊は、私たちが新しく生まれ変わった者であることの証拠です。そして、聖霊を持つことは、最終的に私たちが受け継ぐもの、すなわち神との永遠のいのちを受け取ることを保証するものでもあります。

聖書には、古い罪の習慣を捨て、神を敬う生き方をするようにという励ましの言葉がたくさんあります。今日はそれらを読みません。しかし、聖霊の働きに逆らわないようにという警告や励ましを与えている聖句をいくつか読んでみたいと思います。生まれ変わったクリスチャンでありながら、神がお定めになったクリスチャンの行動基準を守らないことはあり得ます。なぜなら、私自身の経験上、これらの聖句は失敗の後に神のもとに戻ることに

を助けてくれましたし、どうすればもっと一貫してうまく神に従う場所に戻れるかを考えるときにも役立つかもしれないからです。

これらの聖句の最初はエペソ人への手紙 4:30 – 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。(贖いの日とは、キリストの再臨の日という意味です。)

この言葉を考えるとき、聖霊を悲しませるということは、なんとひどいことだろうと思います。この聖句が登場する文脈を見ると、エペソ人への手紙 4 章の後半と 5 章の冒頭に、救われていない人の特徴である様々な罪を捨てなさいという勧めが書かれていることが分かります。聖霊を悲しませるというのは、神の基準に反すると知っているはずの罪に手を染めることです。そのような罪を犯すことによって、聖霊を悲しませ、クリスチャンとしての歩みに支障をきたします。19 節以降には、好色、不潔な行い、貪欲、偽り、怒り、盗みなど、さまざまな罪が挙げられています。20 節には、「しかし、あなたがたはキリストのことを、このようには学びませんでした。」とあります。これは救いの道ではありません。それは、反キリストの道です。クリスチャンがこれらの行動をとるとき、あなたは聖霊をひどく悲しませます。聖霊はあなたの救いの印であり、神と永遠に共存することを保証してくださる方なのに、どうしてそのような悲しみを聖霊にもたらすことができるのでしょうか。クリスチャンの歩みとクリスチャンの証に、どうやってダメージを与えることができるのでしょうか？

肉の罪の誘惑を受ける可能性のあるクリスチャンにとって、もう一つ心に響く御言葉があります。コリント人への手紙第一 6:18-20 – 不品行を避けなさい。人が犯す罪はすべて、からだの外のものです。しかし、不品行を行なう者は、自分のからだに対して罪を犯すのです。<sup>19</sup> あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。<sup>20</sup> あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。

この聖句や他の聖句（例えば、エペソ 5 : 3-5、テサロニケ 4 : 3-8）により、私は深刻な性的罪から身を守ることが出来ました。ある種の罪は、窃盗や嘘など、「体の外側にあるもの」です。しかし、不適切な性的行動は、自分の体を使った罪、つまり自分の体に対する罪です。そして、その体は聖霊の宮であり、神聖な場所なのです。贖いの日のためにあなたを封印した聖霊は、あなたの中に宿っています。聖霊の宮を傷つけないように、あなたの体を傷つけないように、あなたのクリスチャンの歩みとクリスチャンのミニストリーに

おける効果を損なわないようにしましょう。これは恐ろしいことです。そして、この箇所で見られるもう一つの考え方に言及させてください：あなたの体はあなたのものではありません。20節に、「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」とあります。イエスが十字架であなたの罪のために代価を払ってくださった…なんと、あなたの救いのために代価を払ってくださったのです！このことを心に留めてください。どうかそれを尊重して、あなたの体における生活の中で神を敬うことを忘れないでください。「あなたの体で神を讃えなさい」性的な誘惑から逃げなさい。もしあなたが性的な罪を犯しているなら、それを止めなさい。罪深い行為に関わり続けるなら、自分も神もその相手にも敬意を払うことにはなりません。そして、クリスチャン生活におけるあなたの効果的な証の生き方が無に帰してしまうのです。使徒パウロは、この罪から逃れるようにと勧めています。ローマ人への手紙8章は、聖書の中でも最もすばらしい章の一つとされています。ここでは、肉によって生きることと御霊によって生きることの話題に触れている節をいくつか読んでみたいと思います。私が肉的な耽溺と言う時、それはただ性的な罪のことを言っているではありません。それは、他の不適切な好みでもありえます。食物や酒に過度に溺れたり、あるいはプライド（自我の肥大化）などもあります。

ローマ人への手紙 8:5-14 – 肉に従う者は肉的なことをもっぱら考えますが、御霊に従う者は御霊に属することをひたすら考えます。<sup>6</sup>肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。

人生と平和。個人的な経験から言わせてもらおうと肉体を甘やかすことをやめれば心の平和を手に入れることができます。心の安らぎと、より生産的な人生を手に入れることができます。

続けて7節を読みましょう。 – というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。<sup>8</sup>肉にある者は神を喜ばせることができません。

肉にある者は神を喜ばせることができません。御霊の力ではなく、肉の力で行われた善行も、神を喜ばせることはできず、結局はあまり益を生みません。

9 節 – けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中ではなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。」

うわー。それはかなり深刻ですね。真のクリスチャンは、聖霊が宿っているのです。聖霊に従って生きましょう。私たちは皆、神の基準に沿って生きられないこともあると思いますが、過去の過ちを悔い改め、肉に従うのではなく、御霊に従って生きるよう常に努力しますように。

続けて 12 節 – ですから、兄弟たち。私たちは、肉に従って歩む責任を、肉に対して負ってはいません。<sup>13</sup>もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし、もし御霊によって、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。<sup>14</sup>神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。

ここに、キリスト教の理想とする「聖霊に導かれる」ということがあります。これはそれだけで大きなテーマです。聖霊に導かれるためにはどうすればよいのか、多くのことが語られますが、ほんの少し考えてみたいと思います。まず、13 節と 14 節にあるように、聖霊に導かれるための最初のステップは、「からだの行ないを殺す」ことです。つまり、罪深い欲望を捨て、投げ捨て、人生から完全に排除して、自分にとって死んだ存在にすることです。このためには、ある程度の規律と、あなたの側での協調的な行動が必要ですが、あなたには、これを助けてくれる聖霊の力があるのです。聖霊はあなたを助けたいと願っています。彼に助けてもらいましょう。

私の好きな聖句の一つは、コリント人への手紙第一 10 章 13 節です。 – あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。

誘惑に負けて罪に陥るほど強い誘惑はありません。神はあなたを助けてくださいます。実際、あなたが対処できる範囲を超えて誘惑されることを許さないのです。あなたには、それに打ち勝つ機会がいつもあります。実際、神は誘惑から逃れる道を備えておられます。

私は何度もこの聖句にしがみつき、神が用意してくださった脱出の方法を利用してきました。

ローマ 8:13-14に戻りますと、私たちは肉体の行いを捨て、聖霊に導かれることができます。これには、ある程度の訓練が必要です。誘惑から逃れることも必要です。そして、過去に私を助けてくれたもう一つのことは、聖書を毎日、徹底的に読み込むことでした。誘惑に駆られたとき、あるいは間違っただ道を歩んでいる自分に気づいたとき、その困難な時期を乗り越えるために、いくつかの聖句が頭に浮かんでくるのです。神の御言葉で心を満たすことはとても大切なことです。

私の生き方の基礎となったのは、詩篇 119 篇の 9 節と 11 節です。 -<sup>9</sup> どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるのでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。 ...<sup>11</sup> あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。

神が、私たちが罪を捨てるのを助ける方法について、もっと話したいことがあるのですが、今日のメッセージはそろそろ終わりにします。クリスチャン生活のもう一つの重要な側面は、聖霊が私たちに与えてくださるさまざまな賜物で、私たちは教会で、また世界の人々に働きかけをすることができます。私たちはこれを「霊的な賜物」と呼びますが、これらを私たちに与えるのは聖霊だけではなく、三位一体の各メンバーが関わっています。

コリント人への手紙第一 12：4-7 - さて、御霊の賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。<sup>5</sup> 奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。<sup>6</sup> 働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。<sup>7</sup> しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現われが与えられているのです。

神がご自分の民に与えられた霊的な賜物には様々なものがあり、私たち一人一人がそのうちの一つ、あるいは複数の賜物を持っています。今日は、それらの概要について述べることはしません。今日、私が言いたいことは、聖霊は私たち一人ひとりに教会で奉仕する力を与え、一人ひとりに一つ以上の賜物を与えているということです。7 節を見てください。私たち一人ひとりが霊的な賜物を持っているのは、それを「皆の利益、共同体の利益のために」使うためなのです。あなたは自分の賜物が何であるかを知り、それを共同体の利益



のために使っていますか？もしあなたが自分の賜物が何であるか分からないなら、ここにある奉仕活動の一つでボランティアをしてみて、あなたがその活動に熟練しているかどうか見てみましょう。もしそうでないなら、別の分野のミニストリーに挑戦してみてください。私たち一人ひとりが賜物を持っており、あなたが自分の賜物を他の人のために使用する時、共同体は恩恵を受けます。

贈物が小さくても心配しないでください。どんな贈物も大切です。20-23 節にはこうあります。 - <sup>20</sup>「しかしこういうわけで、器官は多くありますが、からだは一つなのです。<sup>21</sup>そこで、目が手に向かって、「私はあなたを必要としない。」と言うことはできないし、頭が足に向かって、「私はあなたを必要としない。」と言うこともできません。<sup>22</sup> せいどころか、からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。<sup>23</sup> また、私たちは、からだの中で比較的尊くないとみなす器官を、ことさらに尊びます。こうして、私たちの見ばえのしない器官は、ことさらに良いかっこうになりますが、」 私たち一人ひとりが教会の中で果たすべき役割を担っており、たとえそれがあなたにとって小さく見えても、それぞれの役割は重要なのです。私たち全員があなたの関わりから恩恵を受けることができるように、あなたの贈物を行使してください。

今日のメッセージの最後に、今日お話ししたテーマのいくつかに触れている箇所をご紹介しますと思います。ガラテヤ人への手紙 5 章 14 節 - 26 節です。14 節には、「(旧約聖書の) 律法の全体は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という一語をもって全うされるのです。」と書かれています。愛は、私たちの仲間のクリスチャンとの関係の中心であり、私たちのすべての仲間との関係を示すべきです。

16-17 節 - 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。<sup>17</sup> なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。

私は今日のメッセージの大部分を費やして、肉の道に従わず、御霊によって歩むようにと促しました。御霊によって歩む。

エペソ人への手紙 4:1 でパウロは言っています。「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい」神と主イエス・キリストに栄光をお返しするような生き方をしましょう。

ガラテヤ人への手紙 5 章に戻ります。19-21 節は肉の行為のリストが挙げられています。しかし、今日はそれらを読みません。

[誇まないうガラ 5:19-21 – 肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、<sup>20</sup>偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派 <sup>21</sup>ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のもので。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。]

22-25 節を読みましょう – しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、<sup>23</sup> 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。<sup>24</sup> キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまな情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。<sup>25</sup> もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。

あなたが聖霊に導かれて生活し、クリスチャンとして成長するとき、ここに挙げた実があなたの生活の中に現れるのです。ところで、この演壇の前面には、御霊の実を描いたキルトがかかっていますね。このキルトは 10 年以上前からこの演壇に飾られています。

この箇所ですべて述べられている御霊の実について見てみましょう。あなたはどうか？ これらの特徴は、あなたの人生を特徴づけていますか？ 愛 ... 喜び ... 平安 ... 寛容 ... 親切 ... 善意 ... 誠実 ... 柔和 ... 自制。

私は、これらの分野のいくつかに欠けていることを認めます。しかし、願わくば、あなたが主とともに歩み続けるなら、この実があなたの人生に現れてくることを願っています。

24 節-キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまな情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。先ほど、ローマ人への手紙 8 章 13 節を読みましたが、そこには肉の行いを殺しなさいと書かれています。私たちは真剣に、私たちが罪に導くような肉の衝動を殺さなければなりません。そして、それを助けてくださるのは聖霊です。

25 節「もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。」聖霊の力によってクリスチャン生活を送りましょう。